

第24回峠の国盗り綱引き合戦

期 日：平成22年10月24日（日）
場 所：兵越峠（浜松市と飯田市の市境にある国盗公園）
主 催：峠の国盗り綱引き実行委員会

峠の国盗り綱引き合戦は、浜松市水窪地区と飯田市南信濃地区の精鋭たちが綱引きをして、勝った方が1年間領土を1メートル奪えるという、その名のとおり市境を賭けた綱引き合戦です。

実際には地図上の市境が動くわけではありませんが、選手たちは年間を通して練習し、真剣勝負に挑みます。

第24回は見事に遠州軍（浜松市水窪町）が勝利し、戦績を12勝12敗の五分に戻し、本来の領土を取り戻しました。

また、三遠南信地域の連携が交流から融合へと進むなか、第24回の合戦では、愛知県豊橋市長が公正公平な行司を務めました。



信州軍



遠州軍

第24回峠の国盗り綱引き合戦



綱引き会場に揃った両軍



行司役の佐原豊橋市長を囲む鈴木浜松市長と牧野飯田市長

「峠の国盗り綱引き合戦」の経緯

合併前の旧水窪町と旧南信濃村の商工会青年部の交流事業として、23年前から始まりました。

水窪町と南信濃村は、山を隔てた隣町同士で、古くは遠州と信州を結ぶ主要な道「塩の道」や「秋葉街道」の宿場町として栄え、人やものの交流も盛んでしたが、昭和に入り自動車も普及する一方で互いの交流は薄れつつありました。

そのような時代背景のなか、互いをもっと知ろう！もっと仲良くなろう！と互いの親睦を深めてきた結果、当時袋井市在住の故加藤信幸氏からの発案で、「峠の国盗り綱引き合戦」の企画が生まれたのです。